

優秀賞 全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞

「わが家の節水大作戦！」

京都府 立命館宇治中学校

三年 和歌 すがお

中二の夏のことです。

夏休みの宿題で「雨水を活用する」という課題が出ました。絵が得意な僕は「貯めた雨水を使って水彩画を描く」というアイデアを思いつき、早速雨の日に十リバケツ三つ設置しました。絵の具を溶くだけでなく、筆やパレットを洗うのも雨水で、と考えていたので、結構な量の水が必要になるからです。ところが、夜通し降ったにもかかわらず、バケツの雨水はあまりに少なく、僕の予定では一夜明けたら溢れんばかりになってはいるはずだったのに、底から数センチ「チョロツ」と貯まっているだけ。しかも何故か砂や木屑の様な物まで混じっているのです。綺麗にこして使える水にする為に、雨水の量は更に減ってしまいました。そうしてひと夏、苦勞して雨水を集め、なんとか課題を提出できた次第です。

もう一つ、世界の住居を調べるという課題にも取り組みました。僕が選んだのは、セネガルのエルバリン村の「漏斗型屋根の家」という住居です。その地域では生活用水を確保する為に、屋根を漏斗型にして雨水を貯め、乾期には数キロ離れた隣町までの川の水を貰いに行くという生活を送っていました。僕達日本人には考えられないことです。蛇口をひねれば、清潔で安全な水が出てくるのが当たり前の生活。トイレに行く度、シャワーを浴びる度、歯を磨く度、何も考えずに水を使い放題だった僕！なんだか急に恥ずかしい様な、自分を責めたい様な、そんな複雑な気持ちになりました。動機は自分勝手ですが、罪悪感から逃れる為に、僕は節水に励むことを誓い、家族にも宣言し、協力をあおぎました。

その日から僕達一家の節水大作戦が始まったのです。風呂水を洗濯に利用するのはよく知られた節水方法ですが、僕は更に無駄をなくす為に次の方法を考案しました。

一・シャワーを使うのは最短にし、なるべく浴槽のお湯を使う。
二・毎日洗濯機を回すのを止めて、その日出た洗濯物は出来る限り各自手洗いする。
三・余った水は、バケツに移してトイレを流すのに使い、洗濯機を回すのは週一回。
これらを実践することにより、毎日の風呂湯が無駄になることはありません。初めはトイレをバケツ水で流すのを「面倒やなあ」とブツブツ言っていた父も、「洗濯物多い！」と文句を言っていた母も、次第に当たり前の様に実践してくれる様になりました。それから、皿洗いは僕の毎日の仕事なのですが、アクリル毛糸で作ったエコタワシを使ったり、泡切れの良い洗剤を選んだりして工夫してみました。ここまでくると不思議なもので、「もつと節約できないか、もっと無駄を省けないか」と節水に取り憑かれてしまいました。でも、それはイヤイヤでも苦痛でもなく、「どこまでできるか」というゲーム感覚になってくるのです。バケツ水があるのに父がうっかりレバーで流してしまい、僕が怒って水道栓を締めた時は、さすがに「やり過ぎやで〜」とひんしゆくをかいました。

そんな節水生活を続けた結果、なんと一ヶ月の水道の使用量が約四分の一にまで減ったのです！これには両親もビックリ、家族の手前「な、結果に出るやろ？」とクールに装った僕も、内心ビククリです。その後も、無理のない程度に節水生活を続け、今に至っています。このことをきっかけに、水に限らず我が家のエコ意識はグンと高まりました。

蛇口をひねれば水が出ることに、何のありがたみも感じず、当たり前と思っていた僕はもういません。苦勞せずとも清潔で安全な水を使える環境に感謝しつつ、水を大切に、無駄を省いた生活を、今後もずっと続けていくつもりです。